

1 大豆の安定生産による下北の持続的水田農業の構築 ～排水性改善と除草体系改善により、平年の2倍の収量を確保！～

【概要】

- 下北地域の大豆は、東通村の農事組合法人大利と目名地区転作組合の2組織を中心に栽培されているが、平均単収(直近5年のうち中庸な3年)は65kgと極端に低いことから、主な減収要因である排水性とツククサ等の難防除雑草対策の改善に取り組んだ結果、推奨した新たな除草体系の改善効果が高く、反収は前年に続き115kg以上となった。

【背景・課題】

- 大豆の安定生産のため、排水性改善及び雑草害対策の改善が必要である。
- 人手不足への対応のため、作業の効率化とオペレーター確保に向けたスマート農業導入への機運醸成が必要である。

【普及指導活動の内容】

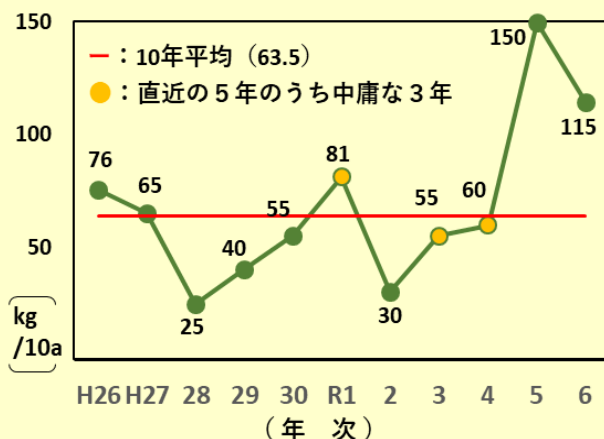
- 除草体系改善実証ほを設置し、ツククサ対策剤の効果と、除草体系の改善効果を実証した。
- 病害虫・雑草防除等の適期作業を指導した。
- 排水性改善実証ほを設置し、穿孔暗きょ機カットドレンで簡易暗きょを施工し、効果を検証した。
- 自動操舵システム(AgriBus-NAVI)現地実演会を開催(10/18、16名)した。
- 岩手県に先進地研修を実施(9/6～7、岩手県、東通村畑作振興会他16名)した。

【成果】

- 難防除雑草対策新規除草剤及び除草体系改善除草剤の高い除草効果が実証され、情報共有された。
- 排水性改善技術の効果は、少雨のため判然としなかったものの、排水性改善対策として、弾丸暗きょが全ほ場に施工された。
- 自動操舵システム現地実演会では、本年導入した農家の使用感や改善点、負担軽減の面での優位性等について認識が共有された。
- 令和4年導入のドローンにより、大利、目名における病害虫防除が適切に実施された。
- 先進地研修において、労働集約的に地域の経営を補完するブルーベリーの取組や、人・モノ・地域を結ぶ役割を担う直売施設の運営方法などについて情報収集した。
- 大豆の収量性アップに到る実証結果等を踏まえて、ほ場の活用や基盤整備の方針について検討された。

【対象名】

おおり
農事組合法人大利(25人)
めな
目名地区転作組合(41人)



大利+目名の平均反収の推移



ツククサに埋もれた大豆(左上)、除草剤体系改善効果により雑草が見あたらない(右)



自動操舵システム現地実演会(10/18)